

令和4年産 麦作情報 第1号

宮城県亙理農業改良普及センター

令和3年10月20日発行

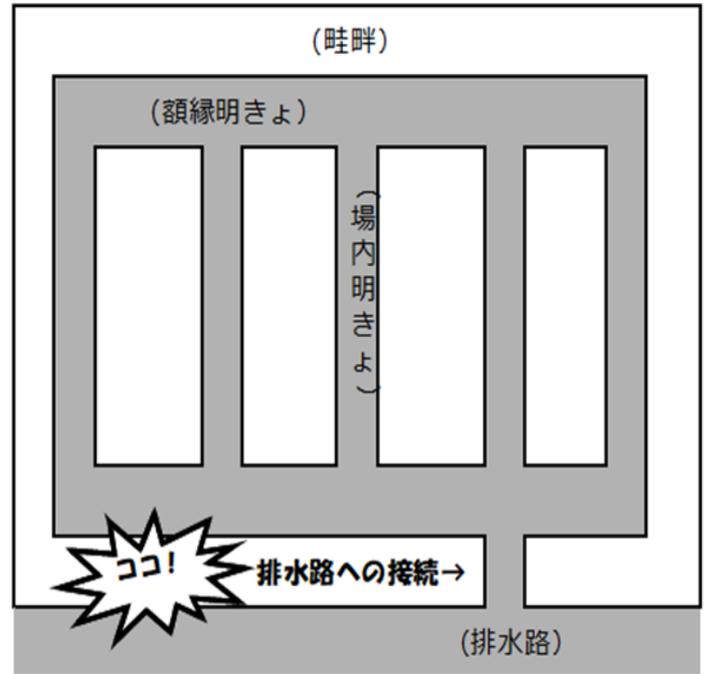
電話0223(34)1141 FAX0223(34)1143

ホームページ<https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

1. ほ場の準備

(1) 排水対策

- 麦類，中でも大麦は湿害に弱いです。「出芽・生育初期」，「節間伸長期～登熟期」は特に注意が必要です。
- 停滞水を速やかに除去するため，弾丸暗きよや明きよを設置しましょう。明きよは10～30m間隔，深さ20～30cmで設けます。
- 明きよは，必ず排水路に接続するようにしましょう。



(2) 土壌pHと碎土率について

◆ 土壌pHの目標（大麦）： pH6.1～7.0

- 水田からの転換畑は，通常 pH5.0～6.0 程度の弱酸性です。そのままだと根の伸長が阻害されて，生育不良となる場合があります。目標 pH を参考に石灰資材で調整しましょう。

◆ 碎土率： 直径 2cm 以下の土塊の割合 70%以上

- 碎土が不十分だと，過乾燥や播種深のバラつきにより，出芽不良・不揃いとなります。また，土壌処理除草剤の処理層がきれいに形成されません。

(3) 基肥

◆ 越冬前に十分な生育量を確保するため，基肥を施用しましょう

目安：窒素 8～10kg，リン酸 8～10kg，カリ 10kg (/10a)

- 稲わらをすき込む場合は，1～2割増にします。（稲わらを分解する微生物と麦が，窒素を奪い合うことで生じる「窒素飢餓」を抑制するため）

2. 播種

(1) 播種時期

- ・ 遅れるほど出芽に時間がかかり、年内の生育量が不足します。
- ・ 10月中の播種が望ましいですが、大豆-麦体系の場合、大豆収穫後、11月上旬までの播種を心がけましょう。

(2) 播種量

◆ 大麦の場合の目安：8～10kg/10a

- ・ 播種が遅れる場合は、播種量を増やし、出芽本数の確保に努めましょう。

(3) 播種深

◆ ドリル播き：播種深約3cm程度

散播（耕起作業を伴う全面全層播き）：攪拌深度5cm程度

- ・ 深すぎる：出芽不良・初期生育の遅れ・分けつ発生抑制の要因となります。
- ・ 浅すぎる：乾燥による出芽不良、除草剤や凍霜害・乾燥害の影響を受けやすくなります。

3. 麦踏み（踏圧）

◆ 麦踏みは <越冬前に1回+越冬後に1～2回>実施しましょう。

- ・ 越冬前：ほ場に凍結層が出来る前
- ・ 越冬後：生育が再開する起生期（融雪期：平均気温4℃）以降

表 踏圧の効果

麦踏圧	土壌鎮圧
<ul style="list-style-type: none">・ 耐寒性・耐旱性の強化・ 徒長・早立ちの防止・ 分けつの増加・ 分けつ相互の生育調整・ 穂揃いの均一化・ 深根化（→鳥害の軽減）・ 稈の強剛化	<ul style="list-style-type: none">・ 霜柱による被害軽減・ 風による土壌移動の軽減・防止・ 旱害による被害軽減・ 鳥害の軽減